

第6章

未来像の実現に向けて

1 実施主体及び推進体制

未来像の実現に向けては、地域の人々をはじめ、行政や民間団体など多様な主体が関わり、本構想を踏まえながら取組を進めると共に、必要に応じて新たな関わりを持つ人々へ働きかけていくことが大事になります。

各主体は、それぞれの役割において主体的・継続的に未来像の実現に向けて取り組む必要があります。また、秋田の縄文遺跡群として一体感のある取組とするために、目指す方向性の共有を前提に、情報の共有及び連携した事業展開を図っていくことが重要となりますので、秋田県縄文遺跡群保存活用連絡会議を生かして連携を深めていく必要があります。

2 各主体に期待される役割

未来像の実現に向けては、秋田県縄文遺跡群保存活用連絡会議が核となって取組を進めていくことから、同会議の構成組織を軸に役割分担を記載します。今後様々な取組を進める上では、同会議の構成組織のほか、県・市の各所管課等や地域住民、民間団体との協力が必要になるため、適宜連携して未来像の実現に向けた実施形態の整備や企画立案等が求められます。また、役割分担に当たっては、取組の性格が遺跡の保存管理、普及啓発、経過観察、情報発信、観光誘客、物販等に分類されることから、県・市・民間団体について、保存活用、経過観察、観光のグループに分けています。

各グループの役割は次の通りです。

①保存活用

主に遺跡の保存管理、普及啓発、経過観察、情報発信、観光誘客を行います。

②経過観察

主に遺跡の経過観察及び秋田の縄文遺跡群に対して所管する法令に係る情報収集

③観光

主に観光誘客・情報発信を行います。

各主体に期待される役割は次の通りです（P.33 別表参照）。

（1）県

秋田県の縄文遺跡群に関する取組を一体的に進めるため、全体を包括する役割を担います。

①保存活用

文化財保護室・鹿角地域振興局・北秋田地域振興局

②経過観察

環境保全課・農林政策課・森林環境保全課・都市計画課・道路課・河川砂防課

③観光

観光戦略課・交通政策課

(2) 市

各遺跡の保存管理、普及啓発、情報発信、観光誘客等で主軸となる役割を担います。地域住民や民間団体と連携して取り組むことが求められます。

鹿角市

①保存活用

文化財・世界遺産課・大湯ストーンサークル館・政策企画課

②経過観察

農業振興課・農地林務課・都市整備課・農業委員会

③観光

生活環境課・観光交通課

北秋田市

①保存活用

文化スポーツ課・伊勢堂岱縄文館・総合政策課

②経過観察

農林課・建設課・農業委員会

③観光

観光課

(3) 地域住民

県及び市と連携して保存活用に取り組むことや、新たな価値を創造していく担い手となることが期待されます。

(4) 民間団体

得意分野等において各主体と連携し、遺跡の保存活用や新たな価値の創造に関する取組への参画が期待されます。

①保存活用

大湯S Cの会・伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ

②観光

株式会社かづの観光物産公社・株式会社十和田タクシー・一般社団法人秋田犬ツーリズム・秋北バス株式会社・一般社団法人北秋田まちづくり観光協会・北秋田地域素材活用推進協議会・秋田内陸縦貫鉄道・大館能代空港ターミナルビル株式会社

3 持続的な運営に向けて

(1) 基本的な取組の継続

各主体の基本的な取組が、秋田の縄文遺跡群の持続的な保存活用にとって基礎となります。基本的な取組を継続するためには、人材の育成が重要になりますので、秋田の縄文遺跡群の価値や地域で守ってきた歴史などを将来にわたって継承し、世界遺産が着実に未来世代へ引き継がれるための担い手育成を念頭に、取り組むことが望まれます。

(2) 課題への対応

本構想で示してきた課題については、中長期で取り組むものも多くあります。これらに取り組む中で、その時々々の需要に応じた対応が必要になりますので、アンケート等利用者の声に耳を傾けながら実施することが重要です。

(3) 協力体制の構築

未来像の実現に向けた取組の中には、各主体が連携して実施するものも多くあります。秋田県縄文遺跡群保存活用連絡会議や様々な集まりの場を生かし、情報共有を強化しながら連携の推進を図っていく必要があります。